



発行所 飯田市松尾公民館
編集人 松尾公民館広報委員会
印刷：龍共印刷株式会社



会場の子供たちと『鬼滅の刃』の人気曲を演奏

11月14日から2週間にわたって鳩ヶ嶺八幡宮の紅葉を鮮やかに照らしたライトアップ。21日の最終日には、和笛演奏者の森田梅泉さんによる篠姫高校の商業科3年生8人も『地域人も『地域教育』の一環で参画。慈光松尾保育園の園児と共に作成したランプシェードで参道を照らし、出店した子供向けの屋台は多くの親子連れで賑わった。



親子連れで大盛況の高校生ブース

2011年から松尾まちづくり委員会総務部が企画運営。八幡宮をはじめ地区内各種団体も協力し、恒例行事として定着している。この日は、飯田OIDE長姫高校の商業科3年生8人も『地域人も『地域教育』の一環で参画。慈光松尾保育園の園児と共に作成したランプシェードで参道を照らし、出店した子供向けの屋台は多くの親子連れで賑わった。

★6年生がモデルロケット打ち上げ★
★貴重な体験学習★
11月17日、松尾小学校6年生130人余りを対象に科学実験教室が行われ、児童らは自作のモデルロケットを打ち上げた。火薬エンジンを貼り付けた紙のカレンダーを丸めてロケットの本体を作り、厚紙で作った羽根とポリエチレンの袋を切ったパラシュートを取り付けて完成。

児童は早速校庭に出て各々発射台に取り付けた後全員でカウントダウン。「5. 4. 3. 2. 1発射」ロケットが白煙を上げながらおよそ100メートル打ち上げると児童からは「やったあ、上がった」「おー高い」など歓声が上がった。松尾まちづくり委員会育成部青少年健全育成会が主催し、飯田市のおもしろ科学工房、松尾公民館松尾サイエンスとの協働で始まって今年で9年目。前日に日本人宇宙飛行士の野口聡一さんの乗った新型宇宙船「クルードラゴン」が打ちあげられ、宇宙への関心が高まる中、「これをきっかけに、科学に興味を持ってもらえたらうれしい」と松澤秀明育成会会長が話した。



ようこそ松尾へ

代田区 宮國康弘さん



今回は、代田区にお住まいの宮國康弘さんご一家をご紹介します。消防や壮年会活動、地域の行事にも積極的に参加され、様々な場面でご活躍されています。4人目のお子さんご生まれ、ますます賑やかな宮國家を康弘さんに伺いました。

Q 遣されましたが、そこで一緒に働くことになった隊員が、妻の実加です。毎日の生活はどんな様子ですか？
A 予防医学に関わる仕事をしています。研究者として研究機関に所属しながら、飯田市で起業し行政のデータ分析を通じて、住民やその地域の健康状態をデータで見える化をしています。また、日本福祉大学看護学科でオンライン講義を担当して、教育にも携わっています。「コロナによって在宅での仕事も増えましたが、出張が減ったため、子供の保育園の送り迎えもできるようになりました。4人目の子供が生まれたばかりだったので、家において家族と過ごす時間が増えたのはとても良かったです。理想とするのはどんな家族でしょうか？
A 子供も大人も一人の人間として尊重しあえるような家族になりたいなと思います。毎日元気な男の子4人が家中を走り回って、笑って、喧嘩して泣いて、毎日の生活もバタバタですが、それでもそんな時間を大事にして、親としては子供の自立をサポートできるようにしていきたいなと思います。

一昨年の父の日に、名古屋に嫁いだ娘からお腹の子供のエコー写真が送られてきた。新しい命を授かった喜びと、血が繋がったことへの感謝に思わず涙が出た▼無事に生まれてくれることを祈る中、昨年1月に女の子が誕生した。「孫は目に入れても痛くない」とはよく言ったもので、時折折娘が送ってくる動画を見ては夫婦で笑って癒されている。子供の瞳は澄んでいて美しいものだ。人は大きくなるに連れて嘘をつき、汚れた物を見てその輝きを失っていくのだろう。悲しいことだ▼私たちは今、子供の頃に夢見た未来に立っている。あの頃想像していた未来とは異なっているところもある。想像以上の部分もある。私の孫たちの未来はどうなっているのだろうか？今以上に機械化が進むからといって、ギスギスした世知辛い世の中になっただけはほしくない。便利で優しい未来であってほしい。そんな未来の基礎を今我々が築いていかなければならない▼子供たちが花を見て綺麗だと思えば、夕陽が沈むのを見て淋しいと思ふ気持ちをいつまでも忘れないでいてほしいと願っている。

人物さんぼみち

112 牧野とみ子さん



10月のある日、公民館へ突然と千羽の鶴が飛んできた。何と作者は100歳のお婆ちゃんだという。5羽にも満たない小さな鶴が、実にきちんと折られている。半信半疑で取材に行った。牧野とみ子さん、大正10年3月16日生まれ、今年100歳を迎える。城区

在住。畑仕事が好きで今も現役。手先が器用で、暇を見つけては手を動かしているという。長女の美代子さんが本から学び伝えるとすぐに覚えてしまい、その種類は実に多い。自宅には各種の鶴、満員の舟下り、お雛さま、千羽鶴など所狭しと並べられている。畑作業は作付け計画から病害虫の観察、追肥の時期、収穫の喜びなど常に頭や体を使う。その上、折り紙で手指を使っていることが長寿につながっているのだらう。まして食べ物に好き嫌いがなく、大好きな晩酌を家内で楽しんでいく。これが究極の長寿のヒミツ。

松尾の人口

男子	6,180人
女子	6,756人
計	12,936人
世帯数	5,178世帯
11月末現在	

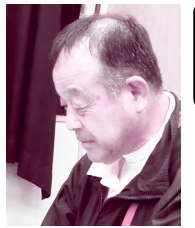
常盤台区



常盤台分館長 平沢 利夫

コロナの影響は？ 分館長を受けたときはそれ程コロナのことは考えてなく、頑張ろうと思っていたが、分館行事ができず申し訳ないと思っている。 建設業への影響、補助金を貰うこともないが今後は分からない。

毛賀区



毛賀分館長 中村 四郎

質問 自分の職業に対するコロナの影響 回答 仕事はしていないので影響はなかった。 質問 コロナ禍での分館への思い 回答 昨年度も台風の影響などで夏祭り毛賀や市民運動会が中止となつてしまつたが、今年度も年度当初計画した事業がほとんど中止となり区民の意気を高めて親睦・団結を図ることができず、残念でならない。

明区



明分館長 小林 友治

今年度は新型コロナウイルスのため、公民館活動が殆ど中止となり、本館と分館の交流もない寂しい年となつてしまった。

今後は、今まで以上に交流を深めていくことが大切である。そのためには、役員のリクリエーションや懇親会などを行い、交流を深めるのも一つの方法かと思う。 交流が深まれば縦横の繋がりがより更にしっかりしたものになつていくのではないかと。

清水区



清水分館長 宮脇 忠良

コロナ禍の中で始まつた、令和2年度の公民館活動。相次ぐ行事の中止に活動する事もなく、半年以上が過ぎてしまつた。 昨年新しくした清水区の旗も、運動会もなくまだ御披露目出来ず、寂しい限り。

上溝区



上溝分館長 伊藤 博隆

食品加工に携わる立場で、コロナは生活に関わる危険と認識しており、ワクチンなどの決定的解決法がない現状で、危険性を最小限に抑え分館事業を行う方策を模索している。

八幡町区



八幡町分館長 尾曾 勝明

今まで経験したことのないコロナ禍では、どの事業においてもそれが原因のクラスタにならないことが最重要で、今までと同様と言ふ訳にはいかず三密を避け、事業規模の縮小や、取り止めは仕方がないと思う。

寺所区



寺所分館長 光澤 正

コロナ禍で各種行事が中止になる中、代案事業としてマレットゴルフ大会を開催した。晴天の下多くの区民が参加し区民相互の親睦が図られた。12月に、世代間交流事業としておやす作りを行った。

令和2年度文化祭

毛賀区文化祭

11月7、8日に毛賀区民会館で令和2年度毛賀区文化祭が行われた。コロナ対策を随所に施し、人気のバザー・豚汁・抹茶のサービスは中止した。 例年と異なつた形の開催となつたが、小規模ながら今年も芸術の秋に毛賀区民が持ち前の才能を発揮する場となつた。

水城区文化祭

11月15日、水城コミュニティ防災センターにおいて文化祭が開催された。 今年度はコロナ禍での開催となり、午前9時30分から正午迄と規模を縮小して行われ、万が一の場合に備え、来場者記録、検温、手指消毒と対策が施された。催物としては、 文化展、骨密度測定・健康相談、駐車場の売店があり、大勢の区民が参加し盛大に行われた。

上溝区文化祭

11月14、15日、上溝集会所で、コロナ対策を取つて上溝区文化祭が行われた。換気に配慮して会場をレイアウト。芸能発表会はプロジェクター等を使用した映像展示に。高齢者を招待することとは出来なかつたが、2日間101人が訪れ盛況だった。



代田区 普段は自家分と受託分の農業をやつているがコロナの影響はさほど受けなかつた。ただ、例年楽しみにしている両国での初場所観戦は行けないなあ。 春の歩こう会と夏のマレットゴルフ大会は中止。今回、コロナウイルス感染症対策をすることで初めてペタンク大会の開催が可能となり、改めて区民が顔を合わせる機会の大切さを感じた。今後は行事を精査した上でより充実した分館活動を進めていきたい。



代田分館長 田中 郁男

久井区 新型コロナウイルスに思う 三密、自粛、マスクをする。自宅でも手洗いうがいを必ずやつている。 仕事は税理関係で、飲食関係の方と接する機会が多く、実質の仕事量は減つたけれど、仕事時間は増えた。 分館長の思い 公民館と久井区とのパイプ役となり、久井区各部署とも同様バランスを取つていきたい。



久井分館長 塩澤 秀明

12 地区の分館長を一挙紹介

コロナ禍で分館事業がことごとく中止になる中で公民館と分館をつなぐ役割を担う分館長は何を思い何を為すのか

来年こそは、コロナも収まり、今まで以上に盛り上がる公民館活動が出来る事を願つている。

城區



城分館長 後藤 豊

ウイルスに負けない分館活動 コロナの影響で各地区の分館事業もことごとく中止や延期となり、城區では、春先に計画していた区民マレットゴルフ大会をこの秋にコロナ感染症対策をしつつ盛大に行うことが出来た。分館行事は区民の参加で成り立つ行事である。今後は分館役員と試行錯誤を重ねながら事業に取り込んでいきたいと思う。

新井区



新井分館長 代田 稔

電気工事の仕事をしており伊那市へ車で約1時間かけて通勤している。趣味で購入した30年前の

水城区



水城分館長 久保田 晃

コロナ禍における職業への影響 職業への影響 分館長2年目となった分館長は、春からコロナ禍の中で仕事と、分館長の両立では例年と違い非常に大きな変化があった。仕事は地元スパーに勤務しているが、消費者の外出が控えられ「自宅で食べる」状況となり売上には大きな変

分館行事への思い

分館事業は秋まで全ての事業が中止となつた。取り分け分館クラブ活動が出来ず、特に高齢者が「話したい」「会いたい」「笑いたい」「来年会えるか分からない」との声に注目し、区内の医療従事者の指導を仰ぎウイルス対策を万全にしたうえでクラブ活動を徐々に再開し高齢者の「生活不活発病」未然防止に努めた。

ふれあいひろば

20地区公民館情報交換会 9月17日に上郷公民館で開催され、松尾から4人が参加した。コロナウイルス感染症予防のため、さまざまな公民館活動が中止となる中で、情報の役割などを中心に、情報交換が行われた。

松尾小学校5年生科学教室 11月5日、松尾小学校体育館で、5年生を対象に科学実験教室が行われ、

松尾サイエンススクール 11月28日、松尾公民館第2講座室で行われたCDコマ作りと爆鳴気体実験に、20人余りが参加した。



分館特集



神輿きおいは出来なかったけど

法被に記されている

源氏名の由来を調べてみた

新井区 (松流)

新井区の源氏名である「松流」昭和36年の豪雨災害により堤防が決壊する前は堤防の上に弁天殿鳥神社があった。弁天殿鳥神社の周囲から下流に向かい、松林が続き風流に満ちた景観から名付けられたとされている。



常盤台区 (丸に常)

現在の法被は2代目である。基本のデザインは大きく変わらず、文字が太くなり、水色から濃い青色になった。前面には「ときわ台」の文字をあしらっている。



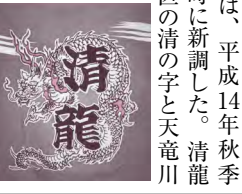
上溝区 (元島田)

上溝は、明治の初めに毛賀村と合併し松尾村になる前の嶋田村に属しており、近辺の久井、新井、水城の中で、山村から思井川の水を最初に引くことから、頭に「元」の字を冠したとされる。



清水区 (清龍)

清水区の法被は、平成14年秋季例大祭前年番の時に新調した。清龍の謂れは、清水区の清の字と天竜川の竜の字を組み合わせた。竜の文字を龍に変えて、清龍としてデザインした。



城区 (城)

城の由来は、建仁(1200年)頃に小笠原家の7代目貞宗が信濃守護になり、今の城区内にある清見寺近くに館跡があったといわれる事から、城と名が付けられたと思われる。



毛賀区 (橋)

「橋」の由来 元和3丁巳年(1617年)、脇坂淡路守様が飯田に入部の折、当時の呼称「毛賀」という事を嫌って「たちばな」と命名し、以来53年間橋村であった事がたちばな古事記という毛賀に関する古記録集にある。



明区 (両壁)

明区の源氏名は両壁となっており、お祭りの際に縦長の旗を左右に掲げ、旗に玉を飾ったところからきている。昔は玉はおそろくヒスイで東洋中南米では、古くから人気の高い宝石であり、金以上に珍重された。左右両方に玉があることから両壁になった。両壁の壁はこのことから土の壁ではなく、玉の壁を用いた。



八幡町区 (鳩嶺)

鳩ヶ嶺八幡宮から鳩嶺と付けられている。



代田区 (三亀甲)

文政6年、長姫城の火災に際し、名纏組(現松尾消防団)は、火災が表沙汰にならぬよう表門だけは燃やさないで死守した。この功績をたたえ堀氏から与えられたのが金3両と、堀氏の馬印である三亀甲であった。飯田市へ合併する前の松尾村消防団の団服にはこの三亀甲が背に縫い付けられ、また、団服が飯田市として統一された現在でも腹掛けに印され、輿望を担う団員の誇りとなっている。



寺所区 (松林)

寺所の法被は、背中に寺所の文字を、胸には区章となっており、「丸にて」の下に「松林連」文字と寺所区の文字が入っている。法被の下部には2葉松の葉模様があしらわれている。以前は水色地に白地で丸に寺所の「て」の字をあしらっていたが、平成24年から現在の法被が使用されている。

「松林」は昭和25年に飯田市で開催されたお練祭りに寺所区が参加する際に前代の法被が作成された「松林囃子」から松林の名前を取り、区民が連帯して取り組もうという意味もあわせて「松林連」と名付けたと言われている。



水城区 (二亀甲)

由来不明 ロゴにふた亀甲 平成10年に神輿会が主体となり神輿を新調した際に、法被も併せて新調し現在も使用されている。以前の法被には、区旗のロゴが使用されていた。



久井区 (久盛)

集会所に残る古い法被は、今よりもサイズが一回り以上も小さく、おそらく戦前の久盛囃子が盛んな頃に作られたと思われる。現在の法被は、平成10年壮年会を中心に、そのままの字体で作成した。久井区の繁栄を願って、久盛(きゅうせい)としたのではなからうか。



運動会は出来なかったけど

毎年行われる運動会の選手宣誓で掲げられる 区旗のデザインをどうやって決めたの？

新井区

松尾地区の公民館活動が盛んになり、新井区としても運動会などに分館旗が欲しいとの意見が区民から寄せられ、昭和48年の区民会で作成が決定した。デザインは区民に公募し、手を繋いで○を描いた中に新井の新しい字を書いたデザインとなっている。



明区

赤色が太陽、黄色が月を表し、日と月を合体させ明となった。今の旗は明治以降のデザインと思われる。大明旗「飯田城下火災の際、格別なる活躍をした名纏組(現消防団松尾分団)に、褒美として飯田藩主堀公より賜った大名旗が、博覧会出品後所在不明となった故事と当地区名に由来する」



寺所区

寺所の区旗は、丸の中に寺所の「て」の字をあしらっている。寺所区では「まるて」という愛称で親しまれている。このデザインは前代の法被の「まるて」から引用されたといわれ、昭和25年に飯田市で開催されたお練祭りに寺所区が参加する際、法被が作られ、その背中に「まるて」が採用されたが、区章の起源は不明。



清水区

清水区旗は昭和20年代から30年代にかけて他の耕地には区旗があるが、清水には旗がないとの事で福島国雄県議の力添えで、当時の西澤権一郎県知事に、文字を書いてもらったとの事。飛び亀甲は、堀氏の馬印の三亀甲を元にしている。



毛賀区

法被の源氏名の由来と同じ。 明治8年筑摩県伊那郡島田村と毛賀村が合併して松尾村となり同14年に松尾村の一部が独立して毛賀村となった。同22年になって町制の施行によって松尾村・毛賀村を松尾村とした。(昭和31年9月30日に旧飯田市・松尾村・座光寺村・竜丘村・三穂村・伊賀良村・山本村・下久堅村が合併して改めて飯田市が発足した。)



城区

今の旗が作られたのは平成14年以前のように。旗の左上に雀の絵が入っている。その意味は、昔松尾城「館」に住んでいた「スズメ」と名の付く姫がいたらしく、それが由来となっている。



代田区

法被の源氏名の由来と同じ。 水城区 江塚榮治氏談



上溝区

文献を調べ、昔のことを知るお年寄りにも尋ねてみたが、分からなかった。ただ、戦前から法被、ゼッケンなどに使われていたことは確認できた。「上溝を丸く取める」では?という説があるが定かではない。



八幡町区

詳細は不明。鳩ヶ嶺八幡宮の鳩と松がデザインされている。



久井区

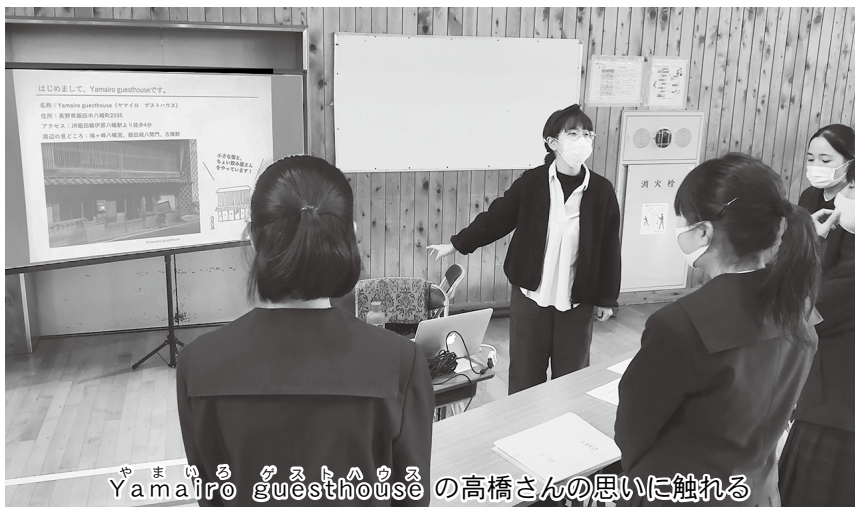
法被の源氏名の由来と同じ。 久盛



◎広報委員が地域の方々に伺い調べたものです。由来には諸説あるようですが、詳しい事をご存知の方は公民館までお知らせ下さい。

結び未来プロジェクト

11月5日、地域の大人たちの多種多様なキャリア（生き様）から飯田の産業や文化を学ぶイベント「結び未来プロジェクト」が「ロナゴ緑中2020」が緑ヶ丘中学校で2年生を対象に開催された。



Yamaïro guesthouseの高橋さんの思いに触れる

婦人会主催講演会

婦人会会長 萩本弥生

10月31日午後2時から松尾公民館和室で講演会を開催した。「大豆・大豆加工食品の健康機能性について」という演題で、信州大学農学部教授の片山茂先生にお話しいただいた。

現在の日本人の栄養状態は脂質の摂取比率が高く、炭水化物の摂取比率が低い欧米型に近い。そのため肥満、糖尿病、心筋梗塞や脳梗塞が増加している。

大豆は昔から畑の肉と言われ、たんぱく質（イソフラボン、サポニン、レシチンなど）を多く含む。豆腐、納豆、味噌、醤油、煮豆など、日本の食卓に欠かせない食材や調味料に加工されて、古くから利用されてきた。中でもこの飯田でよく食べられている凍み豆腐には栄養分が凝縮されており、たんぱく質や不飽和脂肪酸



テーマは「変わらずに飯田を支える大人や仕事と、変わる自分と自分の未来」。この地域を支えている大人たちの思いを受け取り、自分たちが飯田の未来を考えた変わっていきたい、との実行委員会（生徒や教員、地域住民らで組織）の願いが込められている。

参加したのは主に松尾、下久堅、竜丘の3地区内の15の企業や団体。生徒らは各ブースから2カ所を選び、30分ずつ巡った。

八幡町区の「Yamaïro guesthouse」のオーナー、高橋瑞希さんは「仕事とは誰かのためになることをすること」とし「やりたいことを仕事にするのは大変。そもそもやりたいことを見つけて自分で苦労する。私も10年かかった。今は無くても焦らないでほしい。時間がかかっても途中で変わっても大丈夫だから、探し続けていってほしい」とエールを送った。

飯田地区の各戸にハザードマップが配布されたのを機に10月6日、8日、13日に説明会が行われた。松尾12区を対象に3日間で各区10人、合計120人が参加した。

飯田市危機管理室防災係の松尾裕一郎さんより近年発生した災害事例が報告され、「想定を超える規模の災害に備えて、事前に準備しておくことが必要である。この準備として、災害の発生が想定される時にいつ、どこへ、どういう経路で、何に注意して避難するかを事前に決めておく必要がある。これらを各家庭でハザードマップを利用して『わが家の避難計画づくり』を進めてほしい」と語った。（ハザードマップの裏表紙にわが家の避難計画づくりの記載欄あり）

参加した八幡町区の鎌倉

あなたは「らっ、ぶっへ」避難しますか？

ハザードマップ説明会



豊副区長は「今年の7月豪雨時に避難勧告が出たため、分館などで初めて受入のための準備をした。これをきっかけに防災への意識が高まり、ハザードマップを知るようになった。区民の安全を考える立場であるため、今回のハザードマップ説明会へ参加した。今日の説明会で聞いた災害への備えとして、ハザードマップを活用した『わが家の避難計画づくり』を進め、区民の安全を図りたい」と語った。

世代を超えてマレットで交流

寺所区

寺所分館マレットゴルフ大会が、10月11日に秋晴れの下の松尾マレットゴルフ場で開催され、35人が参加した。

大会は、コロナ禍で今年度の行事の殆どが中止となる中、区民の交流親睦の場が無くなり運動会も中止となったことから、その代替案として、あまり密にならず交流が図れるということでマレットゴルフ大会となった。

大会には、小学生から高齢者まで幅広い世代が参加して18ホールで競技。終了後は表彰式が行われ、小学生部門と一般部門の上位者と一緒に交流して、初めマレットゴルフを体験する人もいた。好プレー時には歓声があがり、時には笑い声がコース内に響いた。また、マレットゴルフを高齢者が小学生に教える姿も見られ、世代間交流で楽しい一時を過ごした。



文化教養講座

城 区

11月22日、文化部主催の文化教養講座が城区集会所で開催された。

この講座は、毎年文化部長が城区民に少しでも地域に興味を持ってもらい、憩いの場に足を運んでくれる事を願って企画している。

今年度は「身近な健康講習会」健康診断の結果から自分の体を知ると言うテーマで、飯田市役所保健課保健指導係で4月



から松尾地区担当になった保健師の矢澤美枝さんを講師に招いた。

コロナ対策のため、マスク着用、窓の換気、人との距離を保ちながら区民20人が参加し始まった。

受付で名前と体温を記入し血圧・体組成測定が行われた。

皆自分の血管状態がわかると驚いていた。時々笑いを交えながら真剣に話を聞く参加者。生活習慣病の話から始まり時間もあり、最後に家でできる簡単な体操が紹介されたプロジェクト

松尾図書館
(公民館2階)
開館日 水曜 午後1～5時
土曜 午前10～午後5時
日曜 午後1～5時
本のリクエストも受け付けています。